

|    |     |        |       |
|----|-----|--------|-------|
| 告示 | 番号  | 78     | 内分泌疾患 |
|    | 疾病名 | 中枢性尿崩症 |       |

## 中枢性尿崩症

ちゅうすうせいにようほうしょう

### 概念・定義

下垂体後葉から分泌される抗利尿ホルモンである arginine vasopressin (AVP) の分泌低下により、腎集合管での水再吸収が障害され、低浸透圧尿が多量に排泄される病態である。

### 症状

主症状は口渴、多飲、多尿（一日尿量  $3L/m^2$  以上）である。特に冷水を欲しがることが特徴的である。夜尿で気づかれることもある。何らかの原因で水分摂取が不可能になると、著しい高張性脱水により、発熱、痙攣、意識障害などを呈する。また乳幼児では、体重増加不良や不明熱などの症状から診断されることも多い。

### 治療

AVP の誘導体である DDAVP の点鼻または口腔内崩壊錠による補充が治療の基本である。前者では、乳児  $0.5\sim 2.5\mu g$ 、幼児以降  $1\sim 10\mu g$  を 1 日 2～3 回使用する。後者では、通常  $60\sim 120\mu g$  を 1 日 1～3 回服用する。

口渴中枢が正常で自発的に飲水行動ができる場合には、口渴感に従って自由に飲水をしてよい。乳児の場合は、DDAVP の効果が切れ多尿になってきたら十分に水分を与えることが重要である。

抜粋元：[http://www.shouman.jp/details/5\\_8\\_11.html](http://www.shouman.jp/details/5_8_11.html)